

所 信

【はじめに】

1963年、海部津島青年会議所の前身である津島青年会議所が誕生した。それから何十年の歳月が流れていく中で、科学技術の発展・生活や価値観の多様化・グローバル化・エネルギー問題・少子高齢化問題等のように人々を取り巻く環境は大きく変化をしてきた。近年では、大半の人々が予想をしていなかった新型コロナウイルス感染症拡大が原因となって、人々のライフスタイルに変化を迫られた例もある。

人々が歩みを進めていき、時間が流れていけば、それに伴って、周りの環境に変化が生じることは当然のことでもある。社会は今後も凄まじい勢いで成長を続けていき、予測不能な問題も生じてくるだろう。そこに生きる人々は、これからの社会を生き抜く力を鍛えていく必要がある。

また、周りが変化をする中で、普遍的に変わらないことが求められるものもあれば、変わっていかねばならないこともある。私たち青年会議所が明るい豊かな社会を目指して行動をしてきたことは変わらなかった。今後も目指すべき最上位の目的は変わらない。一方で、青年会議所は、明るい豊かな社会の実現という目的を達成することにより消滅をする団体といわれている。社会の流れに淘汰されて消滅をする団体ではない。そうであれば、青年会議所は、目的達成のために持続可能な組織であることが必要である。

人が未来を生き抜く力を身に付けて、私たちの組織が目的達成のために稼働していくときに、より心躍る未来がまっている。そのために、人はどのような力が必要か、組織はどのようにあるべきかを追い求めていかなければならない。

【探究する力を目指して】

現代では、科学技術の発展により、場所や時間を問わずに情報に触れることや、ある問題に対して一定の解を探すことは、ある面では飛躍的に簡易になってきた。目的達成のために使えるツールは吟味の上で活用していくべきである。しかし、科学技術を活用して得られた情報や解法は、あくまで端緒にすぎず最終的なゴールではない場合も往々にしてあることを忘れてはならない。

また、現代やこれからの未来のように、予測不能で多様な問題が現れてくるとき、人に求められる力は、問題解決をする力だけでは不十分といわれている。もちろん、問題解決のための基礎的な知見は必要だ。しかし、それだけではなく、現代・未来を生き抜く力として、探究する力が必要といわれる。探究する力とは、自ら課題を見つけ、その解決方法を考えて、ときには多様な他者と協働しながら実行をして、その経験を振り返り、必要な修正をすることができる力である。

このような探究する力は、未来で活躍する子供たちにだけ求められるものだろうか。既

に変化に富んだ時代は到来しており、今、私たちが対応しなければならない。また、子どもに対する教育は各コミュニティにおける大人世代が担うことになる。そうであれば、探究する力は子どもだけではなくて、大人にも必要なことである。それぞれの属性に応じて、探究する力を身に付けていくことが必要ではないか。

探究する力は、定義をみてしまえば単純なことのようではある。しかし、探究的な学びをこれまでの教育で体験していなければ実感が湧かないこともあり、正解主義や詰込重視で問題を解決しようとしてきた立場からすればその本質を理解できないこともあり、大きな意識変革が必要となる。

探究する力をどのように身に付けて育んでいくと良いのか。このモデルや形は一つだけではなく、多様に存在するだろう。その中でも、青年会議所は、まさに必要な最適な形や選択方法を提示することができる。

【持続可能な組織を目指して】

ある公立中学校で、定期テスト・宿題・固定担任制の廃止等の改革をした例がある。学校教育の最上位の目的を考えて、問題点を洗い出してより良い現状に変更をしていった。その学校では、生徒が当事者意識をもって問題に取り組み、学習面でも自分で課題を見つけていけるようになったとのことである。この事例で一つひとつの変更の是非はさておき、最上位の目的から、それまで当たり前とされていたことであっても、現状に鑑みて見直し変えていくことは必要である。

これまで海部津島青年会議所では、より意味のある運動発信を行うために、日々努力を続けてきた。メンバーが、日夜を問わず議論を交わすこともあれば、事業の準備に明け暮れたこともあった。このような先輩諸氏のたゆまぬ努力のおかげで、青年会議所は地域から理解されるようになってきた。地域や組織を次の世代へ繋いでいくためには、たゆまぬ努力はこれからも必要であることは努々忘れてはならない。

一方で、既述の社会の変化、メンバーの人数や在籍年数の減少などの様々な要因から、十分な運動発信ができない場合が生じることが懸念されるようになってきた。また、いつの間にか、まちづくりのための手段である事業を行うことが目的のような意識になり始めたり、参加することだけが目的に変わったりすることも懸念されるようになってきた。

改めて、最上位の目的を常に見据えて、そのためにどうするか考えていく必要がある。手段が目的となることは、往々にして起こることであり、最上位の目的は何であるかを考えることは青年会議所だけではなく、各自の社業や家庭などの生活においても共通の大切なことではないか。そして、組織を社会に即した持続可能なものとして存続させるためには、その意味を理解して、目標との関係で分解して、再構築をしていく必要がある。

組織は人からできている。そのため、組織をより意味のあるものに変えるには、トップダウンでの変更だけではなく、そこに所属をする人間が変わる必要がある。組織改革の事例は、デジタル化・風土や制度の見直し等様々であるが、メンバーの意識の変化が必要だ。

上位の目的とは何か、手段が目的になっていないか、持続可能な組織とは何か、各自が改めて見直す必要がある。そして、メンバーが共通のあるべき方向を目指して活動していくことができ、持続可能な組織となる。

加えて、青年会議所は、地域社会や周りの人に理解されて受け入れられる組織であることが必要である。そして、学んで成長した人間を社会に送り出すことができこそ、手段としての青年会議所に意味がある。どのような事業や発信であれ、相手のことを考える必要があり、決して独りよがりになって理念を押し付けるようなことがあってはいけない。

青年会議所が社会に理解をされる持続可能な組織となれば、周りのファンも増えていく。青年会議所が各自の手段としてより意味があるといえるものであれば、候補者からも理解をされて会員数が増えていき、さらに持続可能な組織となる。

【おわりに】

新型コロナウイルス感染症拡大が始まって4年目にさしかかり、いまだに先の見えない大変な時期は続いていく。その他にも問題は多く存在するだろう。いち市民として、いちメンバーとして、それぞれどう考えているだろうか。より良い未来を模索する者もいるかもしれない。明るい展望が想像できない者もいるかもしれない。なすがままで何らの考えをもたない者もいるかもしれない。色々な状況の者がいるかもしれないが、今、横を見ればそこには力を合わせる仲間がいて、前を見ればその先には希望が待っている。

変化の多い社会、これからの未来、まちづくり、学び、青年会議所、楽しいものである。

これからの時代に臨むにあたり、人が生き抜く力を持ち 青年会議所がその役割を果たしていくことができれば、相乗効果で心躍るまちが現れると信じている。

EPIC TIME

～想いを実現しよう～

基本方針

【探究する力を目指して】

市民・メンバーが探究する力を学ぶとともに、その修得の形を提案します。

【持続可能な組織を目指して】

持続可能な組織であるために必要なことをメンバーが身に付けます。また、周りから受け入れられる持続可能な組織となります。